



NO.106

2025 春夏号

年数回発行

発行：●浄土真宗本願寺派 報恩寺

鯖江市杉本町 31-42 住職 ☎090-9765-1343

H P : <https://www.ho-on-ji.com>

編集：林 暁 satoru@utopia.ocn.ne.jp

将来にむかって歩くことは
僕にはできません。
将来にむかってつまづくこと
これはできます。
いちばんうまくできるのは
倒れたままです。

フランク・カフカ（一八八三～一九二四）



不条理、孤独を題材にした作品で知られるチェコの作家・カフカが、当時婚約者に宛てた手紙の一節（相当後ろ向き？）。41歳で結核のため死去する彼の人生はさまざまな葛藤に満ちたようだが、戦乱や逆境など波乱万丈というわけでもなかった。

今春、TV 番組でこの言葉を紹介した「絶望名言」には、ドストエフスキー、ゲーテ、太宰治、芥川龍之介、宮沢賢治などによる様々な絶望の言葉が取り上げられている。著者の頭木弘樹氏は大学生のときに難病を宣告され、十三年間の闘病生活を送った。

不遇不運に見舞われた際に、多くの場合は前向きな元気になる言葉、あるいは宗教や偉人などの普遍的な言葉を求めたくなる。それは自然なことだが、一方では悲しい時には悲しい音楽など浸りたい、というときもある。不安や絶望がことさら大きな時に心に響くのは、むしろ同じ絶望を表現した言葉だったり体験者の話だろう。そのリアルさは当事者自身の感じ方であり、他者と比較するものではない。

この、半分倒れたまま生きていく、というのはとてもよくわかる。まさに昨年の暗

（次頁へ）

仏さまというのは

向こうから私のところへ

いつも来てゐるはたらきです

状に、藤澤師自ら講義や布教の際に語っていた英国グットマン博士（パラリンピック提唱者）の言葉が記されていました。

「失ったものを追い求める前に、残されたものの価値を見出せ」

藤澤師はこのことから入院中の孤独や愚痴を振り払い、病気になるなければ分らなかったこと、悲しみに出遇わなければ知り得なかった貴重な経験ができたことを慶ばれたのです。

生まれてきた意味も知らず命終えていく方向もわからない私は、「あなたが命終えて私の国お浄土に仏として生まれたいようなら私は悟りを開かない」という阿弥陀様の本願をそのままいただいて、生きる意味と方向が明らかになります。憎い人の中に如来を見、不遇の人生の中で仏様のお育てに遇い、苦難に耐えその意味を転換する智慧を与えていくのが、阿弥陀様のまことの大悲・智慧です。

何人かの子がいても、親は病に見舞われた子にひとときわ愛情を注ぐように、いつでもどこでも、阿弥陀様の働き場所は悪業煩惱の真っ只中にしかいられない私のこの身なのです。（出典「月々の言葉」）

◆著書「ほくほくと生きる」

九十歳の法話」からの言葉。師は国内外で布教や著述活動に尽力されましたが、七十二歳のとき咽頭癌の手術で声帯を失い、読経も法話もできぬ絶望感は想像を超えたものでありました。

そこに届いた一通のお見舞い

（前頁より）

黒に沈んでいた自分のこと。妻が不在なのにこの世界が、自分の人生が続いていることの絶望的な違和感。自分にできることは存分に悲嘆の感傷に沈むことだけだった。

そんな状態にあれば、そのまま必要なだけ沈んでいられるのを認めてくれることが癒しになる。勿論、人によっては起き上がって頑張らざるを得ない場合もある。しかし倒れたままでも、喪失や絶望を抱えながらも生きる「在り方」があると、この言葉は示し、温かく後押ししてくれるようだ。

いずれ人は、絶望や悲嘆や不条理な苦しみを受け止め、それらを糧に人生を再起動させていくのかもしれない。しかし今は徹底して、倒れ、迷い、悲しみ、苦しむべき時であり、そしてその経験の中にどれほど

豊かな価値が眠っているのかを、本人の奥底が気づいているのではないだろうか。

阿弥陀仏はいかなる命も必ず掬い取って覚者にすると誓い、悟りと慈悲の浄土を作り仏となった。その願いは私たちの計らいや想定を超えた次元で働いている。

大きな働きや流れに委ねるしかない

自分を明け渡したとき、ふっと何かが軽くなる。つまづきや執着や不条理の中に、私がこの人生で味わい探求すべきテーマがあると常に願われている。



NHK〈ラジオ深夜便〉制作班／飛鳥新社（文庫本）

2025 年：戦後 80 年間の核兵器使用の危機と削減への歩み

2020 年版に追記。今後も核兵器使用が未遂、事故が軽微であり続けることができるでしょうか。

7万 6万 5万 4万 3万 2万 1万発

世界の核兵器保有数の推移

★ 1986 年、70480 発（米露英仏中 5 カ国）がピーク。
米国は独伊蘭ベルギー各基地にも数百発配備。98 年に印パ、05 年に北朝鮮、09 年にイスラエル（非公式）が保有。開発疑惑国にイラン、シリア、ミャンマー。削減の動きは右年表下線部分。

世界の核実験

冷戦期から 90 年代初頭にかけて約 2000 回。ソ連（露）726 回、米国 1127 回。仏 200 回、英国（米と共同含む）と中国は 45 回行った。

世界の核弾頭数（24.1 月）

ロシア 5580、米国 5044 中国 500、仏 290、英 225、印 172、パキスタン 170、イスラエル 90、北朝鮮 50 計 12121 発。内実戦配備 3904 発。

米露（解体待ち除く）で全体の 9 割保有。

* データは一部不確実。

* 太字は米ソが核兵器使用を検討、又は未遂に終わった事件（13 件）

- 1945 ・ 米、世界初の原爆実験 広島に 16kt、長崎に 22kt の原爆投下
- 1951 ・ 朝鮮戦争膠着、マッカーサーが中ソ都市に原爆投下を提案
- 1954 ・ 米、ベトナム戦線の仏軍への原爆提供申し入れも欧州抵抗
- 1955 ・ 広島で第 1 回原水爆禁止世界大会開催
- 1956 ・ 第 2 次中東戦争（スエズ危機）にて米ソ互いに威嚇
- 1957 ・ ソ、ウラルの核惨事：核兵器工場で化学爆発 IAEA 発足
- 1958 ・ 台湾海峡危機に際して米軍部が戦術核兵器使用提案
米、ビキニ環礁水爆実験「死の灰」で第五福竜丸 23 名被爆
- 1961 ・ ソ原子力潜水艦 K-19 冷却水事故、8 名死亡
- 1962 ・ キューバ危機：ソ潜水艦副長アルヒーホフが核魚雷発射認めず
この頃核実験は大気圏内から地下へ移行
- 1963 ・ 米英ソ、部分的核実験禁止条約（PTBT）に調印
- 1964 ・ 中国核実験 米、ベトナム軍事介入
- 1968 ・ 米艦船プエブロ号の北朝鮮だ捕事件で核使用検討：ソが仲介
・ ベトナム戦争・ケサン攻防戦で戦術核使用許可を密電
- 1970 ・ 核不拡散条約（NPT）発効：191 カ国・地域が締結
～米ロ英仏中の 5 カ国以外への核兵器の拡散防止を目的
- 1971 ・ 日本、非核三原則を決議
- 1973 ・ 第 4 次中東戦争で対ソ：エジプトがイスラエルと会談で回避
- 1979 ・ 米、スリーマイル島原発事故
- 1983 ・ ソ、ペトロフ中佐事件：米核ミサイル飛来検知を誤報と退け
- 1986 ・ ソ、チェルノブイリ原発事故
- 1988 ・ 米ソ、中距離核戦力（INF）廃棄条約発効～欧州から撤去
- 1989 ・ 米ソ首脳マルタ会談、冷戦の終結を表明
- 1991 ・ 湾岸戦争でのイラクの化学兵器使用を抑止（異論あり）、5kt 核弾頭投下？、劣化ウラン弾汚染で帰還兵や住民に健康被害
・ 米ソ、第 1 次戦略兵器削減条約（START I）調印
- 1995 ・ NPT 無期限延長決定 東南アジア非核兵器地帯条約署名
・ 露、米ロケット発射に反撃せず（後に他国の観測衛星と判明）
- 1996 ・ 国連、包括的核実験禁止条約（CTBT）採択～ 24 年現在 187 カ国署名 177 カ国が批准も、米中など未批准で未発効
- 2001 ・ 米、同時多発テロ
- 2003 ・ イラク戦争始まる：劣化ウラン弾 北朝鮮 NPT 脱退宣言
- 2011 ・ 福島第一原発事故 米露、新戦略兵器削減条約発効
- 2014 ・ クリミア危機、露による戦術核兵器の準備
- 2017 ・ 国連で核兵器禁止条約採択～製造、保有、使用、援助、威嚇の禁止。現在 94 カ国署名 73 カ国批准。日本や核保有国不参加 核兵器廃絶国際キャンペーン ICAN にノーベル平和賞
- 2018 ・ ハワイで弾道ミサイル飛来・誤警報パニック騒ぎ
- 2019 ・ 中距離核戦力廃棄条約失効 ローマ教皇、長崎広島訪問
- 2022 ・ 2 月ロシア、ウクライナに軍事侵攻、ウ国内原発占拠
- 2023 ・ 10 月ハマスの大量殺人を契機にイスラエルがガザ地区侵攻
- 2024 ・ 10 月日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞受賞

(前頁補足)

・**包括的核実験禁止条約(CTBT)**:1996年に国連総会で採択。爆発を伴うあらゆる核実験を禁止する条約。2024年現在187カ国が署名し、日本や英、仏、露を含む177カ国が批准しているが、高度な原子力技術を持つ「発効要件国」44カ国の批准が必要で、米、中、印、イスラエル、北朝鮮など、発効に必要な8カ国の署名や批准が得られず、未発効。

・**核兵器禁止条約**:2017年7月7日国連で122カ国の賛成により採択、2021年1月22日に51カ国・地域によって発効。2024年現在締約国73カ国、署名94カ国。核兵器の製造や保有、使用、援助や威嚇も禁止。また、核実験被害者の支援や汚染環境の改善措置を盛る。核保有国や日本など「核の傘」依存国(加、独、NATO加盟国、豪、韓など)は、CTBTとの関連を理由に議論に参加せず。2年ごとに締約国会議。ICANは核兵器の非合法化を目的に、核戦争防止国際医師会議を母体に07年設立。

・**日本原水爆被害者団体協議会(被団協)**:1956年長崎での第2回「原水爆禁止世界大会」で結成。被爆者の立場から核兵器廃絶と原爆被害への国家補償を訴えてきた。2016年には核兵器の禁止・廃絶を求める国際署名を提案して世界に呼びかけ、20年末までに1370万人超の署名を国連に提出した。田中照巳代表委員は、12月の平和賞受賞スピーチで、「原爆で亡くなった死者に対する償いは、日本政府はまったくしていない」と訴え、ウクライナ・パレスチナの危機に「限らないくやしさと怒り」を表した。

「もし、私が死ななければならないなら」

リファト・アラリール(作家)

もし、私が死ななければならないなら

あなたは生き続けなければならない

私の物語を語り継ぐために

私のものを売るために

一切れの布と数本の糸を買うために

(白く長い尾のあるものを)

そうすれば、ガザのどこかにいる子どもが

天を見つめるなかで

炎に焼かれて去った父を待ちながら――

誰にも別れの言葉を告げないまま

肉体にも

自分自身にさえも――

あなたが作ってくれたその風が

あなたが作ってくれたその私の風が

空高く舞い上がり

ほんの一瞬、天使がそこに現れて

愛を取り戻してくれるから

もし私が死ななければならないなら

それが希望をもたらすものでありますように

それが語り継がれる物語になりますように

(「物語ることの反撃―パレスチナ・ガザ作品集」より)



■2023年12月、ガザ地区の経験を語り、パレスチナ人の権利を訴え続けた作家で教育者のレファト・アラリール氏が、イスラエル軍の空爆で死亡した。44歳。

アラリール氏は「北部にとどまる以外に選択肢はない、ほかに行く所がない」と述べ、「みんなが一つの部屋にいて、もし死んだらみんなが一緒に死ぬのか。それとも別々の部屋にいて、少なくとも誰かが生きられるようにするのか。パレスチナ人はみんなそんな論議をしている」とCNNに語っていた。氏はガザ地区や難民キャンプのパレスチナ人若者の声を伝える非営利組織「We Are Not Numbers(我々は数ではない)」の共同創設者。

数を事実として知ることと、生の物語に触れること、今も戦中の国の現実のひとつだ。

●4月20日に妻・千種の一周忌法要を、28日に祥月命日を迎えました。法要では実家ご親族や親戚、近所の方々、友人らにお参りいただき、ご法中や総代さん、衆徒にも大変お世話になりました。いくつか不手際もありましたが、彼女のスライドショー第二弾も観ていただき無事終了。



命日前後には友人らが墓参りに来寺。会食したり、温かな交流の時間となりました。その席で「これから新しく始めたいことである？」と問われ、自分には新鮮な話題でしばし考えて皆で盛り上がりたり。

それもあってか、一周忌が過ぎてみると、なんだかお正月の節目のような、新しい一年がスタートしたのか、という感覚になりました。季節の巡りでしょうか。

そんな感覚を味わう中で、一年ずつ歳をとるというのは、彼女と再び会う日が確実に近づくことなんだ！とふと気づきました。年老いて死に向かうのは一般的に喜べないかもしれませんが、かえってほっと安心します。再会のシーンが思い浮かべば、嬉しさに涙滲みそうになることも。

●今年2月以降、ようやく妻の遺品を整理し始めました（未だ途中）。彼女のノートや日記など沢山の書き物には、仕事や自分自身に望むことに目標を立て、予祝したり熱心に勉強してきた足跡が残されています。

自助治療においては自分の内面を見つめ

直し、心折れそうな時も自分を鼓舞し続け、尋常ではない痛み辛さに様々な手当て法を試行しながら耐え…。病態の不安や将来への葛藤にも揺れながら、日々小さなことにも希望や感謝を見出し、必死に新しい自分へ生まれ変わろうとしてきた努力の数々。

あるバインダーに、50歳になったあなたへ、として自らに当てた手紙が挟まれていました。治療五ヶ月目47歳の誕生日ごろに書かれ、楽しく幸せな暮らし、謳歌しようね、大丈夫だよという自分へのモチベーションアップの言葉…。もう胸が潰れそうです。



一人暮らしを始めてから綴られた「自分大好きノート」の表紙には

①魂の喜ぶことをする ②ワクワクを大事にする ③これでいいのだーを口ぐせに ④自分らしくいることが周りを幸せにすると彼女らしい宣言文が書かれています。

その結婚記念日のページには「私はあなたに出会えて幸せ、それだけでこの人生充分！！私はあなたを幸せにしていますか？」と記され、見つけたとき思わず「勿論幸せだよー！！今もだよー！」と一人号泣…。

●彼女の取り組みはがん発覚の一年半ほど前からでした。皮膚の状態に苦しみながら仕事と家庭生活の限界が来て、22年1月からアパート暮らし。温冷浴や半断食などで復職果たしたものの異変は静かに進行。

彼女自身、若い時から腎臓、アトピーアレルギー、更年期など婦人科系、そしてがんと、ずっと病気とともにあった..と書き記してました。無邪気でお調子者で、ただそれを発揮する場所がなかった、とも..。

頑固な一面も持ちながら、自分がよいと感じれば素直にすぐ取り入れ、以前からの食養生(マクロビオティック)やJW ティー、半断食に加え、ホメオパシー、枇杷葉温灸、生姜電法、各種セミナーなどNPO ガン患研がサポートする自助療法の数々と、三井式温熱療法、冷え取り健康法、陶板浴 etc

それら懸命な取り組みによって、汗もかけ平熱も上がり血管も太くなり、長年悩ませた皮膚疾患は、様々な排毒を引き起こしながら一年後にほぼ完治しました。お腹の腫瘍にまで効果が至らなかったのは、言わばマイナスからのスタートだったからでしょうか。当時のガン患研副代表・K先生は「生命力の強い人、時折不思議に起死回生もあり、ただいろんなことに影響受けやすく、波があった」と述懐されました。

●5月上旬、妻の過去のSNSがなぜかアップされてると知人が知らせてくれました。2019年2月、いきなり多くの反響が

あって本人もびっくりした投稿でした。

~~~~~

私は結婚して、10年ほど経つが、子供はいない。「子供がいなくて、楽なんだよ」と、言われることがある。

そう言う人に反論する気はないが、子供の事が原因で、仕事を休む人がいると、快く出勤するようにしている。

私も陰ながら、子育てに参加しているつもり。(旧 Twitter で 20 万いいねがついた投稿)

~~~~~

自分をよく見せたりひがんだりとはまるで無縁、自分を見つめながら当然のように周囲を思いやる、いかにも彼女らしい発想。なかなか真似できません。仏法で「身口意」と言いますが、想いも言葉も行動も一致していた彼女は、ずっと自分のお手本であり、これからも自分を育ててくれる、かけがえない伴侶です。合掌。



4月上旬、桜の苗木を中庭に植樹。昨春は車椅子で花見に行きたいと、しかしもはやそれどころではなかった。今年は一緒に愛でたね。

▼家事と母の世話と片付けの日々。法務において皆様には何かと迷惑おかけします。(S)



▼3月永代経法要にはお参りありがとうございました。今年は坊守含め25名ほどのお弔いでした。ご法話には社会福祉にも長年活動されている友人、真宗出雲路派・泰圓澄師に福祉の観点からもお話しいただきました。

